

098 太陽と緑あふれる神話の源流みやざき 川柳の祭典

宮崎市

開催日：令和3年7月11日(日) ■ 開催場所：宮崎市民プラザ オルブライトホール



実施状況

国内外から川柳を募集し、男女問わず、幅広い年齢の人たちに川柳の素晴らしさを広めることを目的に開催されました。

令和2年5月から3年3月まで募集した「事前投句 A」では、「メダル」「牛」「高千穂」「趣味」を課題に、令和3年4月から5月に募集した「事前投句 B」では「遊ぶ」「忘れる」「神話」を課題に、未発表の作品を募集したところ、事前投句 A に1,468人、同Bに1,229人の応募がありました。

祭典では、入選・入賞作品の発表と講評、表彰が行われました。最高賞の文部科学大臣賞は、中武弓さん(宮崎市)の「少しずつ忘れて朝食がうまい」で、人は少しずつ物事を忘れるが、生命力や希望を前向きに捉えて詠んだ作品で、「不安の中でも現実を見据え、川柳に大切な心の温かさや優しさにじみ出ている」と評価されました。

表彰

文部科学大臣賞▽国民文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県知事賞▽第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県教育委員会教育長賞▽宮崎市長賞▽第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会会長賞▽宮崎市教育委員会教育長賞▽一般社団法人全日本川柳協会理事長賞▽宮崎県現代川柳協会会長賞

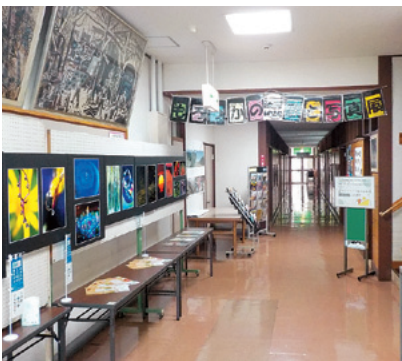
主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、一般社団法人全日本川柳協会・宮崎県現代川柳協会

099 もろつかの短歌と写真展

諸塚村

開催日：令和3年7月17日(土)～10月17日(日) ■ 開催場所：諸塚村役場、諸塚村中央公民館 ほか



実施状況

「自然と、つながる。」をテーマに諸塚村内外から寄せられた短歌と写真を、一人でも多くの人に見てもらおうと役場庁舎だけでなく、各地区の公民館などにも展示しました。

作品は村内の小中学生が詠んだ短歌85点と、インスタグラムなどを利用し、村外からの応募を含めた写真153点。短歌部門では、「ぬくくなり茶つみはじまり即休けいこづかいのためちょっとがんばる」など、クスッと笑いを誘う作品も。子どもの視点で見た故郷の生活が生き生きと詠まれていました。

写真の部では、同村の豊かな自然や村民の姿を切り取ったプロ顔負けの作品が多く見られました。最優秀賞に選ばれたのは、鶴木和博さん(福岡県)の「桜吹雪と塚原ダム」。鶴木さんは「ダムカードを求めてダム巡りをしていた時に、よく塚原ダムの放流と桜吹雪に出会えました」とコメント。優秀賞は、荒瀬早幸さん(宮崎市)の「手をつないでお墓まいり」が選ばれました。

関係者は、「Instagramでの募集を通して、地元出身の若者が地元とつながりを求めていることや、ツーリングなどで諸塚に来たことがあるという諸塚ファンが多くいることを知りました」と話していました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、諸塚村、諸塚村教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭諸塚村実行委員会

100 みやざき神話のふるさと短歌大会

宮崎市

開催日：令和3年7月25日(日)

開催場所：宮崎市民プラザ オルブライトホール



実施状況

全国から募集した短歌の表彰と作品の講評が行われました。応募作品 897 点のうち文部科学大臣賞を受賞したのは、羽田野とみさん(大分県)の「濃き青と淡き青とを皿に溶き一気にゑがく旬の鱈を」。本県からは、馬乗園寛子さんの「泥んこのグランドぐるぐる駆ける子らオノゴロ島も生れんばかりに」が国民文化祭実行委員会会長賞を受賞しました。

記念講演では、歌集「希望」で第5回若山牧水賞を受賞した歌人の小島ゆかりさんが登壇。和歌、短歌の歴史が大きな川の流れのように移り変わる中、短歌の「五七五七七」の流れは守られてきたと説明。「コロナ禍で、これまで日常では使わなかった言葉が使われた。言葉は時代によりニュアンスが変わるもの」と語りました。

表彰

文部科学大臣賞▽国民文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県知事賞▽第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県議会議長賞▽宮崎県教育委員会教育長賞▽宮崎市市長賞▽第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会会長賞▽宮崎市議会議長賞▽宮崎市教育委員会教育長賞▽各選者賞

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、日本歌人クラブ、現代歌人協会、宮崎県歌人協会

101 郷土で蘇る嵯峨信之ー嵯峨信之シンポジウムー

都城市

開催日：令和3年8月6日(金)

開催場所：都城市ウエルネス交流プラザ



実施状況

都城市出身の詩人で、専門誌「詩学」の編集長を務めた嵯峨信之(本名・大草実、1902～97年)の存在や作品を再確認しようと、シンポジウムや作品など関連資料の展示などが行われました。

嵯峨は戦後、詩学を通じて山本太郎、川崎洋、谷川俊太郎など数多くの詩人を育成し「詩の校長先生」と称され、自身も秀作を残し、現代詩人賞や芸術選奨(文部大臣賞)に選ばれています。

シンポジウムでは、谷川俊太郎の解説で著名な詩人の谷内修三さんが講演。嵯峨の作品にたびたび登場する「魂しい」という言葉に着目し、「嵯峨にとって『寂しい』といったような状態を指す言葉」「独自の表現を誘い出す、一番の力が遠く離れたふるさとだったと思う。多くの作品にふるさとを慕う、純粹さや永遠さのような思いが隠されている」などと説明しました。

会場では展示作品等の説明、代表作の朗読など行われたほか、嵯峨自身によるスケッチ、代表著書などが展示されました。地元でも知られざる文化人の生涯にスポットを当てることができ、関係者は「嵯峨の功績を知る人は少ないですが、地元が生んだ偉大な詩人を知ってほしい」などと話していました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会、見者乃会

102 牧水・短歌甲子園

日向市

開催日：令和3年8月22日(日)

開催場所：日向市役所 委員会室



実施状況

宮崎が生んだ歌人若山牧水を顕彰するとともに、高校生の自己表現力の向上、文化の振興を図るために開催。本大会は、令和3年で11回目を迎えました。新型コロナの感染拡大を受け、事前に提出された作品をオンラインで審査。その結果、学校対抗戦は、渋谷教育学園渋谷高校(東京都)が優勝、準優勝は宮崎西高校でした。3位は宮崎商業高校、星野高校(埼玉県)でした。

大会には本県の9校18チームを含む、全国から過去最多となる33校59チームが応募。歌人の伊藤一彦さん(審査委員長)ら4人が審査員を務めました。各チーム3首ずつ出品し、伊藤委員長が本選に進む12チームを選びました。本選は本来、2チームずつの対戦形式で行われますが、新型コロナのため紙上審査に。1次リーグ、準決勝、決勝と事前に出された作品を審査していきました。普段の大会で見られる、舞台上で対戦する2チームによる、歌への思い、言葉の持つ意味などを戦わせる場面はありませんでしたが、伊藤委員長は総評で「レベルの高い斬新な感覚と表現の作品がたくさんありました」などと述べました。

表彰

個人戦／若山牧水記念文学館長賞▽俵万智賞▽大口玲子賞
▽笹公人賞▽日向若山牧水顕彰会長賞▽牧水・短歌甲子園実行委員会賞▽牧水・短歌甲子園 OBOG 会「みなと」賞

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日向市、日向市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日向市実行委員会、牧水・短歌甲子園実行委員会、日向若山牧水顕彰会

103 連句の祭典

日南市

開催日：令和3年8月22日(日)

開催場所：日南市国際交流センター 小村記念館



実施状況

連句の魅力を発信しようと、全国から作品を募り、表彰式、実作会を開催する予定でしたが、新型コロナの影響により宮崎県立看護大学の館真晴教授の記念講演、実作会は中止となりました。応募作品は審査を行い、入賞・入選作品を選出。作品集を作成して、応募者全員に送り表彰を行いました。

作品は「連句のルーツの神々とともに詠う」をサブテーマに、一般の部に480作品、ジュニアの部(中高校生)に37作品が寄せられました。

一般の部は文部科学大臣賞など12作品、ジュニアの部は宮崎県連句協会特別賞、奨励賞、努力賞が2点ずつ選ばれました。本県関係では、ジュニアの部で同奨励賞を日南高校、同努力賞を宮崎商業高校が受賞しました。

表彰

【一般の部】文部科学大臣賞▽国民文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県知事賞▽宮崎県議会議長賞▽宮崎県教育委員会教育長賞▽第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞▽日南市長賞▽日南市議会議長賞▽日南市教育委員会教育長賞▽第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日南市実行委員会会長賞▽一般社団法人日本連句協会会長賞▽宮崎県連句協会会長賞【ジュニアの部】宮崎県連句協会特別賞▽宮崎県連句協会奨励賞▽宮崎県連句協会努力賞(いずれも各2点)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日南市、日南市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日南市実行委員会、一般社団法人日本連句協会、宮崎県連句協会

104 宵がたり×新富町民朗読公演(中止)

新富町

開催日：令和3年9月5日(日) ■ 開催場所：新富町文化会館 大ホール

予定していた
事業内容

本県を拠点に平成14年から活動するフリーアナウンサーの藺田潤子さん、前田晶子さん、倍友子さんの3人による語りのユニット「宵がたり」のスペシャル公演。今回の朗読会は以前から温めていた企画で、「古事記、そしてあなたが紡ぐ物語」と題し、朗読と音楽が融合したステージが展開される予定でした。地元住民も参加して、2部構成で「語り」の奥深さを感じてもらおうと練習を重ねてきました。

第1部は、新富町内の中学生から一般まで10人が参加する夏目漱石の「夢十夜」の朗読劇。第2部では、宵がたりの3人が、鎌田東二「超訳 古事記」より「古事記」を朗読。音楽家・服部響さんのオリジナル曲の生演奏に合わせて、神々の時代に思いをはせるような演出を予定していましたが、新型コロナの影響を受け、中止となりました。

予定していた
プログラム

【第1部】新富町民の皆さんによる「夢十夜」(夏目漱石作)
【第2部】宵がたりによる「古事記」／鎌田東二「超訳 古事記」より
▽演出／黒木朋子(どらまさるく)▽音楽／服部響
▽出演／宵がたり(藺田潤子、前田晶子、倍友子)▽新富町民参加者／安藤ヒサ子、圓崎宏美、中島清美、山田貴子、山田寛人、金丸梨乃、清鴻太郎、東咲良、福島寧心、福留有海



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、新富町、新富町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭新富町実行委員会、宵がたり

105 ドライフーズサミット

門川町

開催日：令和3年7月3日(土)～10月17日(日) ■ 開催場所：門川町役場 町民ラウンジ、かどがわ温泉心の杜



実施状況

門川町の食文化として食卓を支えている干物・乾物「ドライフーズ」にスポットを当て、その歴史やメカニズム、活用法やアレンジ法などをパネルと映像で紹介しました。新型コロナのため当初の予定を縮小。パネルを小型に変えて、公共施設を移動展示しました。

ドライフーズサミット～パネル展示～では、ドライフーズの加工前後の写真、干物の作り方や凝縮されたうま味の秘密を写真や図、動画などで説明。「魚のまち門川」とされる同町の江戸時代から平成までの変遷、昭和天皇に献上したかつお節の加工場や昭和初期の港などの古い写真も展示されました。「ドライフーズ」をテーマにアレンジレシピコンテストも実施。応募のあった13品のレシピから選出された優秀作品3品を選出しました。一般投票とインスタグラムの「いいね」の結果、金丸幸子さん考案の温かいごはんと牛乳、砂糖、生クリーム、バニラエッセンスを使った「ライスアイスクリーム」が最優秀賞に輝きました。

町教育委員会は、「門川町が誇る食文化であるドライフーズ(干物・乾物)を通して、その歴史や変遷、利活用を全国・町内に広く伝えることができた。門川町の漁業についての写真を見て、再確認・新発見があったという声をいただいた。今後を担う子どもたちに受け継いでもらいたい文化である。」と話していました。



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、門川町、門川町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭門川町実行委員会

106 「おいしいのべおか」“食”探訪

延岡市

開催日：令和3年7月10日(土)、10月9日(土) ■ 開催場所：延岡市内



実施状況

豊かな自然と食を活かした「東九州バスク化構想」など独自の取り組みを行っている延岡市の食文化を楽しもうと、体験ツアーが開かれました。7月10日のツアーには宮崎市、都城市から訪れた29人が参加。延岡市沖の離島、島浦島周辺のクルージングを楽しんだ後、同市北浦町の「潮香ノ宿 高平屋」でカンパチの刺し身やタイの焼き物、ガラエビの鍋などの海鮮懐石料理を堪能。道の駅北浦で塩ソフトを味わい、日本最南端の清酒専門蔵「千徳酒造」、創業70年の菓子店「風の菓子虎彦」では試飲や試食を楽しみました。

宮崎市からの参加者は「刺し身が新鮮で、どの料理も手が込んでいました。海もきれいで、来て良かった」と喜んでいました。

関係者は「宮崎県内の人にも、延岡についてまだ知られていないと感じました。もっと知ってもらい、満足して帰ってもらえるよう取り組みたい」と話していました。

10月9日のツアーにも25人が参加。延岡ならではの歴史や背景、地域の魅力を体験していました。8、9月にも開催予定でしたが、新型コロナにより中止になりました。

ツアー行程

宮崎市—延岡市北浦町クルージング体験—潮香ノ宿「高平屋」
—道の駅北浦—蔵見学「千徳酒造」—菓子店「風の菓子虎彦」

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、▽協賛＝旭化成株式会社

107 食と文化のフェスティバル in みやざき
～宮崎の豊かな食文化を愉しむ～

宮崎市

開催日：令和3年10月16日(土) ■ 開催場所：シーガイアコンベンションセンター 4階 樹葉



実施状況

国内の著名パティシエが対談し、宮崎県産食材の魅力を発信。また、地元から見た県産食材の魅力や、本県の食育への取り組みを紹介するトークショーも開催され、来場した109人が熱心に耳を傾けました。

「トップパティシエ3名によるトークショー」では、宮崎市の「みやざきベジフル大使」で、15年イタリア・ミラノ万博「スイーツワールドカップ」で優勝した日本代表チームの江森宏之さん、津田励祐さん、中野賢太さんが登壇。

江森さんは、本県特産の日向夏やマンゴーなどの果物に野菜を加えたスイーツを考案し、「宮崎にはポテンシャルが高い野菜が多い」と強調。津田さん「常に新しい物を作ることで、驚きと楽しさが生まれる」、中野さんは「宮崎の食材はいい物ばかり。誇りを持って県外に発信してほしい」とコメントし、トップパティシエならではの視点から県産食材を語り合いました。

出演者

【トップパティシエ3名と食育団体 IKUMI ～育味～によるトークショー】江森宏之（宮崎市プロモーション大使・メゾンジブレオーナーパティシエ）、津田励祐（グラン・ヴァニエユ オーナー パティシエ）、中野賢太（㈱ダロワイヨジャポン取締役）

【IKUMI ～育味～によるトークショー】杉松泰子（食育団体 IKUMI 代表、料理研究家）、坂東淳子（野菜ソムリエ）、竹井倫世（㈱コンフォートダイナー副社長）

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、一般社団法人みやPEC推進機構

108 BBQ 師匠 KONISHIKI さんの 都城 cooking & トークショー (中止)

都城市

開催日：令和3年10月 ■ 開催場所：都城市高城観音池公園



予定していた
事業内容

牛、豚、鶏の合計産出額が市町村別日本一の都城市で育まれてきた「肉」の食文化を、広くPRしようと企画。世界大会が開かれるほど普及しているバーベキュー（BBQ）にフォーカスし、BBQ世界大会で2位の実績を持つ、元大相撲大関でタレントのKONISHIKIさんをゲストに迎え、トークショーや都城牛を使ったバーベキューの実演が予定されていました。

見どころは、世界ランカーであるKONISHIKIさんのトークと、宮崎、都城の肉に合ったおいしい焼き方の実演で、来場者が楽しみながら、宮崎、都城の特産品である「肉」の食文化に触れてもらえるような企画を準備していました。

同時開催を予定していた「都城焼肉カーニバル2021」も中止となりました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会、一般社団法人都城観光協会

109 いけばな小原流 「のべおか秋色のおもてなし」

延岡市

開催日：令和3年7月3日(土)～10月17日(日) ■ 開催場所：JR延岡駅前複合施設エンクロス、エンシティホテル延岡 3階 雅



実施状況

「あまねし花々 いのちを奏でる」をサブテーマに、小原流の特別講師によるパフォーマンスやイベントを通して、華道や宮崎の花の魅力を発信しました。会期中は、JR延岡駅前複合施設エンクロスに週替わりで生け花が展示されました。

10月3日には、同流研究院講師の松浦良則さん(岡山県)が生け花パフォーマンスを披露しました。同市内や日向市、高千穂町など神話ゆかりの地を訪ねた松浦さんは、「県北にゆかりのある神話や名所」をテーマに宮崎の花々を使用し、神話の世界観を見事に表現していました。観覧者が見守る中、県木フェニックスを使った不死鳥、高千穂峡、出逢いの聖地と伝わる愛宕山などをライブ形式で生けていきました。生け花を学ぶ子どもたちや小原流講師も参加しました。

また、池坊、小原流、眞美生流の3流派でつくる延岡市華道連盟は、7月3日から10月17日までJR延岡駅前複合施設エンクロス待合スペースを花で彩り、あわせて各流派の特徴や活動を紹介したパネル展示を行いました。

プログラム

【生け花ライブパフォーマンス(10月3日)】

「いけばなパフォーマンス」特別講師 松浦良則▽延岡市内の子どもたちとコラボレーションした作品製作実演▽華道三流派を紹介したパネル展示

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、延岡市華道連盟
▽協賛=旭化成株式会社

110 将棋チャレンジフェスティバル

小林市

開催日：令和3年7月25日(日)

開催場所：小林市文化会館



実施状況

将棋界のレジェンドであり、「ひふみん」の愛称で親しまれている加藤一二三九段による講演や指導対局が行われ、県内外から将棋ファン約300人が集まりました。

「将棋と人生」と題して、名人位を獲得した時や藤井聡太二冠(当時)とのエピソードを披露。将棋界トップの順位戦A級からの転落を5度経験した経歴を空前絶後の大記録と紹介し、順位戦C級2組に落ちてでもタイトルを目指した経験やクリスチャンであることに触れ、「引退が決まる対局で負けた時は『分かりました』と神様に伝えた」と振り返りました。

講演終了後の来場者との指導対局では、8人と同時に手合わせ。次々と相手を替えながら先を読んで駒を動かし、終盤に一気に勝負を決める様子を、観客は真剣な表情で見守っていました。

加藤九段との指導対局に参加した小学生は、「考える時間がないくらい指すのが早くて強かった。もう一度作戦を立てて、次は勝ちたい」と感激の様子。近くで見守っていた保護者は「加藤九段は雲の上の人。息子にとって貴重な体験となりよかった」と話していました。

プログラム

開会式▽加藤一二三九段講演会▽指導対局／加藤一二三九段、古賀悠聖四段、水町みゆ女流初段▽自由対局▽お楽しみ抽選会



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、小林市、小林市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭小林市実行委員会、日本将棋連盟宮崎県支部連合会

111 茶の湯フェスティバル「ひなた」の茶のべおか出逢いの茶会

延岡市

開催日：令和3年8月1日(日)

開催場所：延岡総合文化センター



実施状況

延岡市の茶道連盟3流派である、表千家、裏千家、大日本茶道学会が主体となり、日本の伝統文化である茶道の「おもてなしの心」を広く伝えていくことを目的に実施。8月1日～10月3日までに4回の開催を予定していましたが、新型コロナの影響を受け、8月1日のみの開催となりました。

茶会では表千家の代表者がお茶を点てながら、作法について解説。親子連れなど342人が表千家流の抹茶を楽しみました。

体験コーナーでは参加者に茶せんが用意され、指南役の先生から作法を学びながら、自分で茶を点てて抹茶を堪能しました。また、表千家流の成り立ちや茶道の心得に関するパネル展示もあり、来場者は興味深く見入っていました。茶道の体験者からは「お茶に親近感がわきました」と感想も寄せられました。

中止となった8月28日、9月19日、10月3日の開催では、裏千家、大日本茶道学会の各流派がお茶を点てる茶道体験などの催しを実施する予定でした。

参加団体

延岡茶道連盟、一般社団法人表千家同門会宮崎支部県北地区



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、延岡茶道連盟
▽協賛=旭化成株式会社

112 茶の湯フェスティバル「ひなた」の茶 都城島津邸茶会

都城市

開催日：令和3年10月2日(土)

開催場所：都城島津邸



実施状況

都城市の歴史と格式を誇る「都城島津邸」を会場に、邸内和室に薄茶席、内庭に野点の2席を設けて開催されました。

新型コロナのため、当初の開催日を変更して行われました。当日は晴天に恵まれ、多くの来場者がお手前を体験。着物で参加する姿も見られました。

表千家同門会宮崎県支部(都城地区)の会員が、薄茶2席でおもてなし。同市の菓子文化を代表する「もすこ(落雁)」や「ふくれ」の和菓子が提供され、参加者は抹茶とともに堪能していました。

会場では小学生によるお手前の披露や、地元の陶芸家・園田空也さんによる茶器の使い方や文化など貴重な話もありました。

来場者からは「会員の皆さんの笑顔とおいしいお茶、お菓子で満足しました」「コロナ禍で外出できなかったため、久しぶりの茶席でうれしかった。野点は開放感があって、すがすがしく気持ちがよかったです」など感想が聞かれました。

参加団体

一般社団法人表千家同門会宮崎県支部都城地区



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会、一般社団法人表千家同門会宮崎県支部(都城地区)

113 茶の湯フェスティバル「ひなた」の茶 県央地区茶会(表千家)

宮崎市

開催日：令和3年10月3日(日)

開催場所：フローランテ宮崎 街並み見本園和室 B棟、C棟



実施状況

茶道の表千家同門会宮崎県支部により、手軽に伝統的な茶の湯を楽しんでもらおうと開催されました。日本に侘茶を広めた千利休を祖とする千家流茶道の本家、表千家の作法に触れながら、伝統的な茶の湯を約120人が体験しました。

同県支部は、毎月開催している月釜とタイアップし、濃茶と薄茶の2種類を、事前に募った参加者にあてました。

1席ごとに畳や茶碗の消毒をするなど、新型コロナの感染防止対策を徹底した中で、濃茶席は1席30分、薄茶席は1席20分で行い、各席ごとに5分の移動時間を設け、茶席は人と人との間隔を広めにとり、全て各服点てとし濃茶の回し飲み、お菓子の取り回しなどの作法は省略しました。

同県支部での大規模なお茶会は1年半ぶり、参加者からは「久しぶりにゆったりとお茶がいただけた」と笑顔が見られました。参加者らはお点前の前後に、サルビアやコスモスなどが咲き誇る庭園を散策するなどして、夏の日差しの残る秋の一日を満喫していました。

参加団体

一般社団法人表千家同門会宮崎県支部



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、一般社団法人表千家同門会宮崎県支部

114 のべおか「キルトの世界」展

延岡市

開催日：令和3年10月4日(月)～7日(木) ■ 開催場所：延岡総合文化センター 展示室



実施状況

全国のパッチワーク愛好家から「宮崎」をテーマとしたキルト作品を募集し、バラエティーに富んだ約470点が集まりました。

会場には延岡市特産「空飛ぶ玉ネギ」やマンゴー、同市出身で大相撲力士の琴恵光関やシドニー五輪メダリストの井上康生さんなどをデザインした作品もありました。

メインの作品は「宮崎」をテーマに制作された30枚で、複数の作品をつなぎ合わせる「パートナーシップキルト」という手法を使い、全国から公募した25cm四方のパッチワークキルトを縫い合わせ1m四方のタペストリーに仕上げました。

また、実行委員が延岡市をイメージして手掛けた縦2m15cm×横2m5cmの大作「時空を超えて神話の源流へ」も披露。作品の中央には、市内在住のイラストレーター森有美さんと渡辺愛さんがデザインした五ヶ瀬川とアユ、天孫ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメの出逢いのシーン、今山大師像や城山の鐘など同市を象徴する文化遺産が描かれ、来場者は興味深く鑑賞していました。

このほか、プロのキルト作家の小関鈴子さんの作品もお目見えし、2m四方の大作6点を公開。「宮崎のキルターたち」と題して、県内愛好家の作品も展示されました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭延岡市実行委員会、のべおか「キルトの世界展」実行委員会 ▽協賛=旭化成株式会社

115 みんなで楽しむ いけばなの祭典

高鍋町

開催日：令和3年10月8日(金)～10日(日) ■ 開催場所：たかしんホール(高鍋町中央公民館)



実施状況

日本の伝統文化である生け花を、幅広い世代に身近に感じてもらうと開かれ、公益財団法人日本いけばな芸術協会の役員と会員が製作した作品の展示や体験教室が行われました。

会場には、日本を代表する池坊、小原流、新池坊、草月流、未生流中山文甫会、龍生派の各流派の作家18人による力作12点を展示。各流派ごとの特色を活かした作品が並び、来場者の目を楽しませていました。また、生け花の歴史や、立花・文人花・盛花など古典的な生け方などもパネルで紹介していました。

体験教室は、障がいのある人、子ども、一般の3部門に分けて実施し、合わせて81人が参加しました。同芸術協会の役員や会員がマンツーマンで指導。ハサミを持つ手がぎこちない感じだった参加者らも、プロのアドバイスを受けながら思い思いの作品を作り上げていきました。出来上がった作品と記念撮影をする参加者は、満足そうな笑顔を浮かべていました。

プログラム

いけばな芸術展(10月8日～10日)

障害のある方のいけばな体験教室(10月8日)

子どもいけばな体験教室(10月9日)

いけばな体験教室(10月10日)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、高鍋町、高鍋町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭高鍋町実行委員会、公益財団法人日本いけばな芸術協会

116 華道家元池坊宮崎県連合支部花展

宮崎市

開催日：令和3年10月16日(土)～17日(日) ■ 開催場所：宮崎ブーゲンビア空港 オアシス広場



実施状況

「『華・花・はな』未来を生ける」をテーマに、県内7支部の62人が1点ずつ出品し開催されました。

花は「立花」「生花」「自由花」の様式で生けられており、コスモスやリンドウなど季節の草花を使用し、いずれも秋を感じさせる作品ばかりが並びました。

会場では、華道男子グループ「IKENOBOYS（イケノボーイズ）」による「いけばなパフォーマンス」も開催されました。「イケメン=いけるメンズ」たちが華道の素晴らしさや奥深さをライブで伝え、来場者たちを魅了しました。パフォーマンスは大好評で、終了後には多くのファンが写真撮影を求め、会場がにぎわいました。

ワークショップでは「いけばな体験」を開催。研究員・イケノボーイズOBでアドバイザーの柿沢正一さん、イケノボーイズの馬場健さん（延岡市出身）の指導で、参加者は思い思いの作品を創作しました。

同連合支部の宮路三千代支部長は「無駄をそぎ落としたシンプルな作風の中にある美しさを感じてほしい」と話していました。

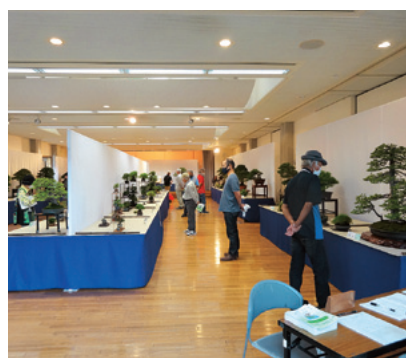
主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、華道家元池坊宮崎県連合支部

117 盆栽展

宮崎市

開催日：令和3年10月15日(金)～17日(日) ■ 開催場所：フローランテ宮崎 夢花館



実施状況

盆栽は日本古来の伝統文化で、“年配者の趣味”というイメージが強いものの、近年は世代を超えて興味を持つ人が増えています。日本だけでなく世界の幅広い世代にも人気が高まっています。

本展では樹齢200年を超える真柏しんぼくの古木や、国風盆栽展で日本一に輝いた「五葉松」など貴重な作品がお目見え。また、樹高15cmほどの小さな盆栽など、33席(103点)が展示されました。天気にも恵まれ、会場には県内だけでなく福岡県、佐賀県の愛好家たちも含め、3日間で約4,000人が来場しました。

16日のデモンストレーションでは、令和元年の総理大臣賞受賞作家・漆畑大雅さん(静岡県)が講師を務めました。本県の野元大作さんが助手を務め、宮崎支部事務局の野元勉さんの進行で実施。樹齢150年ものの黒松を素材に、手際よくせん定、針金掛けをしていきました。漆畑さんの手際の良さに、会場から感嘆の声が上がり、受講者たちは熱心に質問をしていました。

プログラム

盆栽の展示(10月15日～17日)
▽デモンストレーション(16日)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、日本盆栽協会宮崎支部、日本盆栽協会延岡支部、南風会

118 茶の湯フェスティバル「ひなた」の茶 in こばやし

小林市

開催日：令和3年10月17日(日)

開催場所：小林市文化会館 エントランス



実施状況

「小林市郷土芸能フェスティバル」が同時開催の予定でしたが、新型コロナの影響により中止され、茶の湯フェスティバル単独での開催となりましたが、会場では「障がい者福祉施設等作品展」も開催され、約160人の来場者でにぎわいました。

日本の伝統文化である「茶の湯」を楽しんでもらうことを目的として、小林市文化会館のエントランスに設けられた茶席では、表千家同門会宮崎県支部小林地区の会員が立礼卓(テーブル式のお茶席)によるお点前と呈茶でもてなし、子どもから年配者まで笑顔で一服のお茶を楽しんでいました。

伝統文化の茶の湯に触れてもらうことで、互いを尊重する「おもてなしの心」やお茶の魅力、作法の奥深さを広く伝えることができました。

参加団体

一般社団法人表千家同門会宮崎県支部小林地区

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、小林市、小林市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭小林市実行委員会、一般社団法人表千家同門会宮崎県支部小林地区

119 日向はまぐり碁石まつり～「囲碁サミット2021in ひゅうが」(中止)

日向市

開催日：令和3年9月18日(土)

開催場所：ホテルベルフォート日向

予定していた
事業内容

「はまぐり碁石」の産地で知られる日向市は、これまで日本棋院日向支部が主体となり小中学生を対象とした囲碁教室や初心者囲碁教室を開催するほか、全国から囲碁愛好家が集まり、すべての対局で「はまぐり碁石」と「榎碁盤」を使用する「日向はまぐり碁石まつり」を毎年開催するなど、囲碁文化の普及に努めています。

本サミットでは、日本棋院理事長の小林覚九段をはじめ、下島陽平八段、長島梢恵三段の3人の日本棋院所属のプロ棋士を招へいし、パネルディスカッションや講演などを通し、囲碁に触れたことのない人も囲碁の歴史や文化について学べる企画を準備していました。

また、囲碁の楽しさを子どもたちにも感じてほしいという思いから、「子ども囲碁体験教室」を予定していました。サミット翌日には、32回目となる碁石まつり囲碁大会の開催も予定していましたが、新型コロナのため前年に続いた中止となりました。

予定していた
プログラム

【サミット参加自治体】平塚市(神奈川県)、尾道市(広島県)、大町市(長野県)、益田市(島根県)、北杜市(山梨県)、鹿島市(佐賀県)、熊野市(三重県)、倉敷市(岡山県)、岩見沢市(北海道)、日向市

【パネルディスカッション】子どもたちに伝えたい！囲碁の歴史とこれから

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日向市、日向市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日向市実行委員会、日向はまぐり碁石まつり実行委員会、囲碁サミット2021 in ひゅうが実行委員会

120 茶の湯フェスティバル「ひなた」の茶 県央地区三流派茶会(中止)

宮崎市

開催日：令和3年9月18日(土)～19日(日) ■ 開催場所：宮崎市民プラザ ギャラリー



予定していた事業内容

宮崎市にある表千家同門会、煎茶互流会(紫竹庵、知足庵)、裏千家淡交会が参加し、各席のお茶を飲み比べながら「みんなで楽しもう!茶の湯『ひなた』の茶」をサブテーマに、日本の文化として受け継がれてきたお茶の作法や歴史、「おもてなしの心」を体験できるイベントを企画していました。

茶席では、抹茶席と煎茶席の2席で前売り券500円(18日8回300人・19日11回420人)、青年部による茶道体験(両日とも70人)を無料で予定していました。

銘々皿にしたり、「ひなた」を作る会によるお茶紹介展示と、参加者が喜ぶ「おもてなし」を準備してきました。

新型コロナの拡大に伴い事業内容の変更等を検討しましたが、調整できず中止することとなりました。

予定していた参加団体

三流派茶会実行委員会、茶道裏千家淡交会宮崎支部宮崎分会

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、三流派茶会実行委員会、茶道裏千家淡交会宮崎支部宮崎分会

121 いこういこう皆でいこう「お香の祭典」(中止)

宮崎市

開催日：令和3年9月18日(土)～19日(日) ■ 開催場所：宮崎市民プラザ



予定していた事業内容

香道は500年を超えて継承されてきた日本固有の伝統文化です。本祭典は、子どもから大人まで多くの方に香道文化を知ってもらい、さらに地元に根付く文化として発展させることを目指して企画しました。

香道二大流派(御家流、志野流)の宗家・家元が直接、参加者に指導するお香席を予定。参加者を募集したところ、宮崎市内をはじめ、県内各地から定員を超える400人もの申し込みがあり、急ぎょ、席数を増やすなど準備を進めていました。イベントでは、お香席体験のほかに、伽羅などの香木を楽しむ「一炷聞香体験」や、折り紙で文香を作るワークショップを企画。香道に関する講演や、香道具の特別展示、香りの文化を学ぶパネル展示などを予定していましたが、新型コロナの影響により中止することとなりました。

※本祭典へは令和元年に開催された「いざや、みやざき宵まつり」に参加し、約300人もの来場があり、大きな反響を呼んでいました。

予定していたプログラム

【お香席体験】18日/志野流家元指導(1席40人を4席)、19日/御家流宗家指導(同) 【一炷聞香】2日間6回(自由参加) 【講演】2日間6回(香道にまつわるお話、自由参加) 【ワークショップ文香づくり】2日間とも午前10時半～午後4時(自由参加) 【展示】香道に関するパネル、香道具

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、公益財団法人お香の会

122 茶の湯フェスティバル「ひなた」の茶 in えびの (中止)

えびの市

開催日：令和3年9月19日(日) ■ 開催場所：えびの市文化センター ホワイエ



予定していた実施状況 茶道に伝わる「一座建立」の精神を体現して亭主と客の一体感を感じてもらい、日本の伝統文化「茶道」の魅力を広く伝えていくことを目的としていました。えびの市会場でも開催予定でしたが、新型コロナの影響を受け、中止となりました。

茶会でおもてなしを担っていたのは、表千家同門会宮崎県支部県西地区えびの、小林地区の会員。亭主が椅子にかけ、机の上でお茶を点てる作法「立礼」によるお点前とお呈茶で、参加者も椅子にかけて気軽に茶に親しんでもらう予定でした。

立礼とは、椅子手前のことで、畳の上に座ってお茶を点てる点前の作法とは異なり、椅子と机を使用するため茶道に馴染みのない人でも気軽に茶を楽しんでもらうことができます。

同日開催の講演会「島内武人とヤマト政権」に合わせてえびの市文化センターで予定されていましたが、中止となりました。

予定していた参加団体 一般社団法人表千家同門会宮崎県支部県西地区(えびの、小林)

主催 文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、えびの市、えびの市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭えびの市実行委員会、一般社団法人表千家同門会 宮崎県支部県西地区

123 茶の湯フェスティバル「ひなた」の茶 県南地区茶会 (中止)

日南市

開催日：令和3年10月9日(土)、10日(日) ■ 開催場所：江戸初期の家老屋敷地「松尾の丸」、旧飢肥藩・伊東家の武家屋敷「豫章館」



予定していた実施状況 九州の小京都とも称される日南市飢肥の由緒施設を会場に、日本の伝統文化である茶の湯を実演。お互いを尊重するおもてなしの心で県民一体となって、人とのつながりを広げるとともに、歴史や伝統文化の良さを広くアピールしようと計画されましたが、新型コロナの影響を受け中止になりました。

初日は裏千家淡交会宮崎支部、最終日は表千家同門会宮崎県支部県南地区の会員たちが担当。それぞれのしきたりにのっとり、来場者を本席に案内してお点前を披露しながら、主菓子と薄茶でおもてなしをする予定でした。

予定していた参加団体 一般社団法人表千家同門会宮崎県支部県南地区、茶道裏千家淡交会宮崎支部

主催 文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日南市、日南市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日南市実行委員会、一般社団法人表千家同門会宮崎県支部県南地区、茶道裏千家淡交会宮崎支部

124 こどもの文化の祭典

延岡市

開催日：令和3年7月24日(土)～10月3日(日) ■ 開催場所：カルチャープラザのべおか



実施状況

子どもたちが、夏休みを中心にさまざまな文化に触れあい、発表する機会をつくり、関心を高めるイベントとして開催。7月24日に開催された「大学教授の化石教室」には、小学5年～中学生20人が参加。実験を通して地学に親しんでいました。

8月7日に開催された「マイバッグ作り」には、小学2年～中学1年までの10人が参加。ボランティアグループ「布の絵本クラブ」の会員が講師を務め、ミシンを使った布バッグづくりをサポートしました。

同8日に開催された工作イベント「カラフルの森～キッズアート工作の森～」には、抽選で選ばれた市内の小学生約20人が参加。新聞紙や色とりどりのセロハンなどを使って動物や昆虫を工作し、子どもたちの自由な発想と想像力で、色を失った森をカラフルな森へと創作していました。

プログラム 【カルチャープラザのべおか】「大学教授の化石教室」(7月24日) ▽「理科読」(7月31日) ▽「よるのとしょかん謎解きゲーム」(8月7日) ▽「布バッグを作ろう」(8月7日、10月2日) ▽「カラフルな森」(8月8日) ▽「よるのとしょかん音楽会」(10月1日) ▽「アートワーク体験」(10月3日) ▽「こどものための朗読会」(8月22日) = 中止

【延岡総合文化センター】舞台発表▽作品展示会▽伝統文化「華道」「茶道」の体験▽おもちゃ広場=いずれも中止



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市、延岡市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術文化祭延岡市実行委員会、こどもの文化の祭典実行委員会 ▽協賛=旭化成株式会社

125 全日本健康マージャン交流大会

宮崎市

開催日：令和3年8月29日(日) ■ 開催場所：シーガイアコンベンションセンター 4階ホール



実施状況

全国各地区の子選を突破した、14歳から88歳までの健康マージャン愛好者196人に、招待のプロ雀士8人がゲスト参加し、腕を競い合いました。

大会はマンゴー、ハマユウ、フェニックス、チキン南蛮という宮崎ゆかりの4グループに分かれて個人戦で行われました。試合時間60分間の半荘戦を、対戦相手を交代しながら4試合戦い、各試合の順位点と得点の合計で競いました。出場者は事前にPCR検査で陰性を確認し、無観客での開催でした。各卓とも飛沫防止用のビニールが設置され、対局の間には卓、椅子、牌などを消毒しながらの対局となりました。普段は会話を楽しみながら競技する健康マージャンですが、今回は大きな声を出すことは控えられました。選手からは「リズムに乗れないなあ」と渋い声も。ほとんど初めて対戦する相手ばかりで緊張の表情でしたが、「知らない相手との対局も面白い」などと、会場には交流の輪が広がっていました。

表彰

文部科学大臣賞▽国民文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県知事賞▽第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞▽宮崎県議会議長賞▽宮崎県教育委員会教育長賞▽宮崎市長賞▽第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会会長賞



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、一般社団法人全国麻雀段位審査会、一般社団法人日本健康麻将協会、日本麻雀連盟

126 日向の高校学習成果展

日向市

開催日：令和3年9月1日(水)～10月15日(金) ■ 開催場所：JR日向市駅 ステーションギャラリー



実施状況

日向市内の県立学校4校は、各校で特徴ある学習活動を行っており、各校の生徒たちが手掛けてきた立体作品や美術作品、研究成果のポスターなど学習活動の成果92点が展示されました。駅の利用者は作品ごとに足を止めじっくりと鑑賞していました。

「日向の高校生が魅せる」をサブテーマに、生徒たちの文化活動への取り組みを発信するのが狙いです。同市を訪れる人たちをもてなそうと、同市の玄関口であるJR日向市駅を会場に選びました。

展示は前半と後半と期間を分けて実施。前半は日向工業高校の建築科が「建築甲子園」で奨励賞を受賞した設計案や電気科が制作したホーバークラフトのミニチュアなどを展示しました。日向ひまわり支援学校のコーナーには、カラフルな色彩のドラゴンやアジサイの花などの水彩画が並びました。

後半は、富島高校の美しいドレス、児童向けの切り絵などが並び、日向高校は住みやすいまちづくりや観光施策をテーマとした研究成果の発表ポスターなどを掲示しました。

スケジュール

9月1日～22日／日向工業高校、日向ひまわり支援学校

9月23日～10月15日／富島高校、日向高校

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日向市、日向市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日向市実行委員会、宮崎県立日向工業高等学校、宮崎県立日向ひまわり支援学校、宮崎県立富島高等学校、宮崎県立日向高等学校

127 川南町文化芸術展

川南町

開催日：令和3年9月23日(木)～29日(水) ■ 開催場所：サンA川南文化ホール



実施状況

川南町文化芸術展は、川南町に在住する園児から高齢者までの557人が、幅広い分野で制作した作品展で、図画や写真、詩など創作活動の成果が披露されました。

園児たちは似顔絵などを出品。小学生は楽しい思い出や本の世界を切り取ったカラフルな絵画をはじめ、木や紙で作った恐竜や戦車などアイデアいっぱいの作品が、中学生は緻密なデッサンや独創性のある水彩画などが展示されました。障がいのある人を含む一般では、新型コロナなど時事を交えた短歌や俳句、書道の作品が並び、来場者は一つ一つ丁寧に鑑賞していました。

書道作品を出品した高校生は、「作者の思いや考えが絵や文字に表れていて、どれも個性的でした。私ももっとうまくなりたい」と刺激を受けた様子でした。担当者は、「町民が文化活動を発表する貴重な機会となり、幅広い作品が集まりました」と話していました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、川南町、川南町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭川南町実行委員会、川南町文化連盟

128 アート×ハート=パワフルフェスタ第1部 ステージ&アートパフォーマンス2021 都城

都城市

開催日：令和3年10月2日(土)、3日(日) ■ 開催場所：都城市総合文化ホール マルチギャラリー



実施状況

都城市に住む高齢者や障がいのある人が制作した、さまざまな作品が会場を彩りました。高齢者は生きがいの一つとして、障がいのある人にはもの作りの楽しさを感じてほしいという思いから、作品展示会が企画されました。

コロナ禍の中で、作品制作もままならない状態でしたが、開会までに約40点が出品されました。展示のための人手が不足する中、都城高齢者クラブ連合会の協力を得て作品を展示することができました。絵画、生け花、写真、パッチワーク、小物など、どれも完成度が高く見どころある作品ばかりで、中には見事な船の模型もあり、細部にまでこだわった作者の思いも見て取ることができました。来場者は作品の前に立ち止まり一つ一つ丁寧に鑑賞し、作者と会話を弾ませる光景も見られました。

会場では、同市聴覚障害者協会が制作した手話について説明したイラスト入りの資料が配布され、来場者の関心を集めていました。

新型コロナの影響により、予定されていた障がい者グループによるダンスや歌のステージや、体験イベントは中止となりました。

参加

都城市障害者団体連絡協議会
都城高齢者クラブ連合会

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、都城市、都城市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭都城市実行委員会、都城市障害者団体連絡協議会

129 日向日向(ひなた)散歩

日向市

開催日：令和3年10月3日(日) ■ 開催場所：日向市内



実施状況

「若山牧水を育んだ日向路を旅する」をサブテーマに、日向市東郷町出身の歌人・若山牧水ゆかりの地などをバスで巡りました。日向市、延岡市から家族連れなど15人が参加しました。

ツアーは、日向市美々津の重要伝統的建造物群保存地区をスタートし、ふるさと坪谷の生家や若山牧水記念文学館、日豊海岸国定公園内のクルスの海、馬ヶ背など牧水の歌碑が立つ観光地を巡りました。

牧水生家では、参加者らは「坪谷川や山並みは、若い時の牧水が見ていたのと同じ風景」という同記念文学館学芸員の説明に耳を傾けました。企画展「繁と敏夫-受け継がれた二人の絆」も見学。歌ができた当時のエピソードにも触れました。

神武東遷御船出の地と伝わる美々津では、観光ボランティアガイドや資料館職員の解説の下、資料館を見学したり、歴史ある町並みを散策したりしました。参加者からの質問も多く、アットホームな雰囲気。各施設で詳しく説明を聞き、地域にある観光資源を再発見できたツアーとなりました。牧水の作品から好きな短歌で作った短冊と記念品が贈られました。

行程

美々津重要伝統的建造物群保存地区—若山牧水記念施設(若山牧水記念文学館・牧水生家・夫婦歌碑)—道の駅とうごう一米の山展望所—クルスの海展望所—馬ヶ背(歌碑見学・馬ヶ背展望所見学)—御鉾ヶ浦歌碑見学—日向市駅歌碑見学

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日向市、日向市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日向市実行委員会、日向若山牧水顕彰会

130 九州ウミガメサミット in 日向

日向市

開催日：令和3年10月9日(土)～17日(日) ■ 開催場所：日向市役所、日向市文化交流センター



実施状況

絶滅の危機に瀕するウミガメの研究者や保護団体による講演会、研究発表が行われました。野生動物の生態に関心のある高校生や大学生、市民らが参加し、保護と環境保全への意識を高めました。

日向市文化交流センターでのサミットでは、宮崎大学名誉教授で宮崎野生動物研究会の岩本俊孝理事長が、「最近のウミガメの保護活動の動向について」をテーマに発表。岩本理事長は、これまで行われてきた卵の移植や子ガメの放流などについて、問題点をデータを用いながら、「移植や放流は行わないことが原則。事情により行う場合も移植は適正な時期に行わないとふ化率が下がるほか、卵の向きも変わることによって磁場の方向が変わり、子ガメが海に向かわなかったり、死んだりします」と説明がありました。

同市役所1階市民ホールでは期間中、同研究会会員が撮影したアカウミガメの上陸やふ化の様子、産卵後に海に戻る母ガメの姿などの写真、県総合博物館所蔵のアカウミガメのはく製や骨格標本などを展示。日向高校サイエンス部によるウミガメの生態や研究結果をまとめたパネルも紹介されました。

最終日には、アカウミガメの産卵地である同市のお倉ヶ浜海岸の視察も行われました。

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日向市、日向市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日向市実行委員会、日向市アカウミガメ研究会

131 ごちそうアーツ(舞台芸術)×小さなアートフェスティバル(美術展)

宮崎市

開催日：令和3年10月14日(木)～17日(日) ■ 開催場所：国際こども・せいねん劇場みやざき



実施状況

「劇場のような、美術館のような不思議なアートイベント」をサブテーマに、多様な芸術文化に親しむ2つの催しが開かれました。

「小さなアートフェスティバル」のディレクションは、テキスタイルアーティストの樺島優子さん。CandYシアターのメインカラーである黄色をイメージした「たぶんきいろいなにか」をテーマにさまざまな作品が登場。来場者の手でアートを完成させていく参加型作品や小学生から高校生が手掛けた作品も展示されました。ライブ配信も行われた「ごちそうアーツ」のディレクションは、コンテンポラリーダンスカンパニーのんまつーぽす(豊福彬文さん、みのわそうへいさん、児玉孝文さん)。県内外12組のアーティストが、各10分間の作品という「ごちそう」を観客にふるまって、心からもてなすパフォーマンス・アーツ・イベントを繰り広げました。

オープニングでは、宮崎市出身の映像作家・姫田真武さんのアニメーションが上映され、その世界観に会場が包まれました。DJタイムではトランポリンが設置され、観客の子どもたちが飛び入り参加、体全体で楽しんでいました。

出演

【小さなアートフェスティバル】ワタナベハルト、大泉佳広、宗彩乃、柳瀬はるか、本多まさゆき、樺島優子、小さなアーティスト(8名)
【ごちそうアーツ】姫田真武、KZMT、Null、西純之介、水崎皓平、公募団体(6組)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎市、宮崎市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭宮崎市実行委員会、透明体育館きらきら／国際こども・せいねん劇場みやざき、きらきらアート保育園、ごちそうアーツ実行委員会、小さなアートフェスティバル実行委員会、特定非営利活動法人 MIYAZAKI C-DANCE CENTER、一般社団法人 namstrops

132 「未来へつなぐ里山づくりシンポジウム」及び「植樹イベント」

綾町

開催日：令和3年10月16日(土) 開催場所：綾町公民館文化ホール ほか



実施状況

「自然と共生するまちづくり」に長年取り組み、ユネスコエコパークに登録されている綾町で、「未来へつなぐ里山づくり」をテーマに、里山での暮らしや里山が果たす役割について考えるシンポジウムと植樹イベントを開催。町内外から約140人が来場し、「豊かな森」の将来像を探りました。

綾町公民館文化ホールでは、木城えほんの郷の黒木郁朝村長が、「みどりのゆりかごづくり」と題して講演。来場者は、熱心に耳を傾けました。続くパネルディスカッションでは、イオン環境財団マネージャーのほか、工芸作家や町職員など6人が登壇。「里山の多様な価値を創造するためには、地域住民、行政、研究機関が同じ思いを持ち、それぞれの強みを合わせることが重要」と提言しました。午後には同町北俣の「綾町イオンの森」で、参加者がヤマザクラなどの苗木を植樹しました。参加者は「先進技術で植樹後の調査ができる」と聞いたのは新しい発見。みんなの手で、一緒に里山をつくっていかねば、と改めて感じました」などと話していました。

参加者

黒木郁朝(木城えほんの郷村長)、西原謙策(イオン環境財団 マネージャー)、遠藤貴宏(リモート・センシング技術センター研究開発部)、奥井博貴(美郷町備長炭製炭技術保存会事務局長)、日高正一郎(綾町・玄太染物工房)、井上隆広(綾町教育委員会埋蔵文化財担当)



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、綾町、綾町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭綾町実行委員会、綾ユネスコエコパーク推進室

133 新富町国民文化祭記念講演会

新富町

開催日：令和3年10月16日(土) 開催場所：新富町文化会館 大ホール



実施状況

テレビ番組などでもおなじみの脳科学者の中野信子さんを招いての記念講演会を開催しました。中野さんは、人間のさまざまな感情や行動を「脳」の動きの観点から分かりやすく解説。会場には、事前に参加申し込みをした町内外からの来場者約330人が熱心に耳を傾けました。

中野さんは「『運』を科学する～運がいい人の行動パターン～」と題し、「運がいい」とは何か、「自分は運がいい」と思う人の性格傾向などを身近な出来事に例えて紹介。軽妙なトークに会場から時折、笑いが起きていました。

海外の脳科学的なアプローチから得られた研究成果として、「運がいい人」に共通する行動パターン、考え方、物事のとらえ方など「運」を引き寄せる秘訣も披露。外向性や開放性が高い性格の人ほど、得する情報を得やすいとして、「運がいいか悪いかは性格が影響している」などと話しました。

来場者からは「自分が生きていくうえで参考になりました」「知り合いに教えてあげたい」などの感想が寄せられました。

講師

中野信子(脳科学者)

「運」を科学する～運がいい人の行動パターン～



主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、新富町、新富町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭新富町実行委員会

134 森林文化サミット(中止)

美郷町

開催日：令和3年9月18日(土)

開催場所：西郷ニューホープセンター、石岐レイクランド



予定していた実施状況

日向備長炭は、日本三大備長炭のひとつとして全国に知られています。令和3年2月には、美郷町備長炭製炭技術保存会の備長炭製炭が宮崎県無形民俗文化財に指定されました。これを記念して、宮崎民俗学会の地村光広さんを迎え、豊かな自然のなかで江戸時代から受け継がれてきた備長炭製炭技術と、現在の取り組みについて講演していただく予定でした。

石岐レイクランドの屋外ステージでは、町内外のアマチュアバンド3団体と、特別ゲストにアルケミスト、車いすのシンガーソングライター真北聖子さんを迎えて「美々川音楽祭」を開催、音楽で地域を盛り上げる予定でした。会場では、神楽の奉納や地域の特産品を使用した料理のふるまいなどを企画。美郷町の文化を多くの人に知ってもらう機会になるよう準備を進めてきました。

新型コロナの影響を受け、中止となりましたが、同町の公式 YouTube チャンネルを活用し、特別記念講演をオンライン配信しました。

予定していたプログラム

【特別記念講演】宮崎民俗学会 地村光弘「伝えたい、守りたい、里山の文化と暮らし」～美郷町備長炭製炭技術保存会の備長炭製炭～

【美々川音楽祭】出演／アルケミスト、真北聖子、町内外のアマチュアバンド ▽郷土芸能発表(美郷町内の郷土芸能保存会)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、美郷町、美郷町教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭美郷町実行委員会

135 DENKEN WEEK2021 (中止)

日南市

開催日：令和3年9月23日(木)～10月11日(月)

開催場所：飢肥城下町



予定していた実施状況

九州の小京都と称され、昭和52年に九州で初めて国の重要な伝統的建造物群保存地区に選定された日南市飢肥の街並みを舞台に、現代アートとのコラボレーションを楽しむイベント。選定を受けて40周年を迎えたことから、風情ある武家屋敷にもっと親しんでもらおうと平成30年から行われており、今回で4回目の予定でした。

今回は、飢肥藩時代の武家屋敷や藩校、寺など歴史的な雰囲気味わえる場所だけでなく、今では住宅地になっている、昭和の時代を感じさせる懐かしい場所での散策を企画。武家屋敷跡など日南市が整備保存を行っている貴重な建物を会場に、画家や書道家らの作品展示、親子連れを対象にした絵画などのワークショップを計画していました。新型コロナの影響を受け中止となりましたが、別途市独自の事業として実施しました。

予定していたプログラム

- 1 自由に歴史的物件を散策する(飢肥城下町)
- 2 歴史的の家屋でアーティストによる展示(華道家、画家、書道家などによる作品展示)
- 3 振徳堂でワークショップ(出展アーティストによる日本画体験など)

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日南市、日南市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日南市実行委員会、飢肥城下文化財を活用した観光まちづくり事業協議会

136 日南たいげん！ 舞台公演 (中止)

日南市

開催日：令和3年9月25日(土)、26日(日) ■ 開催場所：日南市文化センター



予定していた実施状況

本公演は、日南市の伝統芸能を継承している団体や舞踊、コーラスなど舞台活動に取り組む芸術愛好者たちに発表の場を提供することで、日ごろの活動、創作意欲のモチベーションにしてもらうとともに、多くの市民が鑑賞し文化芸術への造詣を深めてもらうことを目的に企画されましたが、新型コロナの影響により中止となりました。

初日は伝統芸能の部。神社などで継承されている昼神楽や獅子舞、江戸時代より今日まで受け継がれている県指定無形民俗文化財の泰平踊などを、市内各地より10団体が披露することにしていました。

最終日は舞台発表の部。日本舞踊や民謡、コーラス愛好者などが、それぞれ「日南の四季」をテーマに学校や職場単位も含めた30団体が思い思いに表現する予定でした。

予定していたプログラム

伝統芸能の部、舞台発表の部

主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、日南市、日南市教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、第35回国民文化祭、第20回全国障害者芸術・文化祭日南市実行委員会